

サビエル生誕五百年



聖地ルルドの信仰

上五島・長崎巡礼⑭

上五島はじめ五島列島の教会に「ルルドの MARIA 像」が多いのは禁教令撤廃後の宣教がパリ外国宣教会に委ねられたことに起因していることは前回触れた。イエスが奇跡を行われたことは聖書にあるが、それは二千年も前のことである。聖母マリアがフラン

スのルルドに出現したという奇跡は十九世紀、歴史的に見ればごく最近の出来事である。極めて具体的で、しかもそこからわき出る水で多くの病人が癒やされるといふ奇跡も起こった。

教会でも見受けられ、私が所属する下松カトリック教会にもある。年間五百万人を超える巡礼者が訪れる聖地となったルルドには私も二度訪れたが、今、このルルドの奇跡をどう理解すればよいのだろうか。

無学で貧しい十四歳の少女、ベルナデッタに聖母マリアが出現したのは一八五八年二月十一日のことである。以後、半年間に十七回出現した。

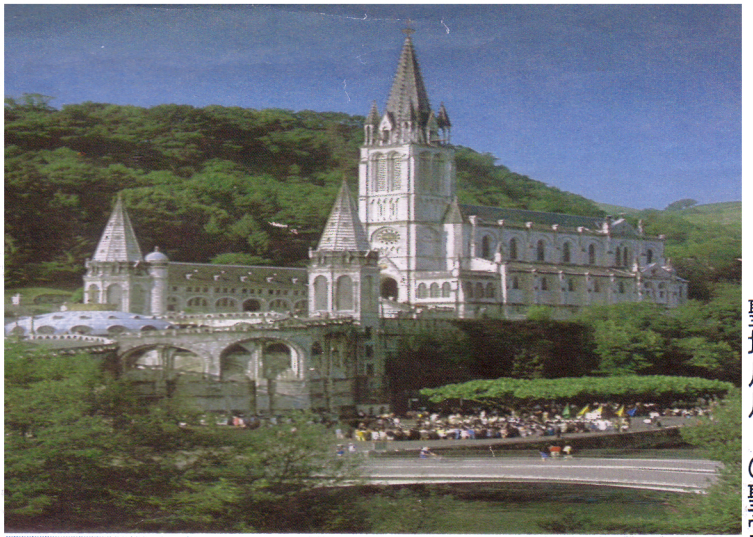
三回目の出現で「この世で幸福にしてあげることではなく、後の世でしあわせにする」と言われる。ベルナデッタは二十歳で修道会に入ったが、病気がちで三十五歳の若さで亡くなる。

九回目では「泉の水を飲みなさい」と言われる。その水で盲人が癒やされるといふ奇跡が起こり、それから一週間後には二万人近くの巡礼者が訪れた。

この言葉は出現の四年前の一八五四年、教皇ピオ九世が「聖母マリアの無原罪の宿りの教義」で宣言したもので、田舎の無学な少女がラテン語でもあるそのような言葉を知るはずもない。この言葉によつて出現した婦人は聖母マリアであり、四年の調査の後、ベルナデッタに出現したのは聖母マリアであると教会が公式に宣言したのである。

初めてのルルド巡礼で大勢の病める人たちがとうとうそくを手に行列に参加した時、病人の奇跡的回復を祈った。しかし、行列が進むにつれ、祈りの行列は信仰共同体であり、仮に奇跡が起こったとしても、それは一つの結果に過ぎないように思い始めていた。

聖地ルルドは奇跡信仰の場ではない。神への揺らぐことのない信仰共同体ができる場である。五島列島をはじめ各地にあるルルドのマリア像。神への祈りの共同体の心で、その像の前で祈りたいと思う。(元山口放送取締役ラジオ局長)



聖地ルルドの聖堂



祈りの行列―病める巡礼者が多い